

令和6年度 学校運営協議会 第2回会議 議事録

岡山県立総社高等学校

日 時：令和6年11月5日（火）

※地域公開授業参観 13：30～16：00

開会行事 13：30～

6限 13：40～14：25 言語コミュニケーション・美術Ⅱ／数学Ⅰ

7限 14：35～15：20 化学／スタンダードライティング

15：30～16：00 世界銀行防災グローバルフォーラム参加報告

学校運営協議会 16：00～17：50

場 所：岡山県立総社高等学校 合併教室

出席者：学校運営協議会委員〔梅田会長、豊田副会長、浅海委員、小原委員、貝原委員、久山委員、清水委員、高山委員、長木委員、横田委員、吉岡委員〕
本校教職員〔事務部長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教務課長、生徒課長、進路指導課長 家政科長、1年主任、2年主任、3年主任〕

1 開会・主旨説明

(1) 梅田会長挨拶

第2回だが、学校運営協議会は、地域と学校が連携していいモデルをつくっていこうというもの。委員の皆さんからいろいろな知見をいただきながら、学校運営の改善に活かしていただきたい。久しぶりに授業を見させてもらった。私が受けていた授業と印象が違っており、いろいろ工夫されているという印象を受けた。学校教育は進化しており、見せてもらう機会を与えていただいたことはありがたい。そういうものをベースにして、こうすればよりよくなるというものを議論できればと思っている。本日は、中間報告ということで、立てた目標に対してレビューをして、我々委員から意見を集める場である。前回もいろいろな知見をいただいたが、今日も地域と学校の連携ということを念頭に、いろいろな角度からご意見をいただきたい。事務局である学校の方でもいろいろと準備してもらって報告をしてもらえるようなので、じっくり聞いていただきいいアドバイスができればと思っている。

(2) 豊田副会長挨拶・学校概要の説明

資料に沿って説明

2 協議

令和6年度学校経営目標を達成するための具体的取組：中間報告（事務局より担当説明）

○説明：教務課では新しい教育課程が1年から3年までがそろった、不具合等ないかチェック中。ICTを活用した業務削減では、採点システムを導入し、多くの教員が活用し成果が出ている。不登校生徒対象の同時双方向型遠隔授業を開始した。生徒課では多くの生徒が主体的に行動している。総高祭のアンケートで97.2%が満足している（昨年91%）。さらに改善しよりよいものにしていきたい。進路指導では、現在、総合型選抜の結果が順次発表されている。学校推薦型選抜の出願も始まり、面接指導を行っていく。生徒の満足度は丁寧な指導で上がる。今年度の数値が上昇しているのも地道な取組によるものであり、それが国公立大学合格者数にもつながる。今年度、島根大学のオープンキャンパスツアーを本校で企画し、予想を上回る31

名の参加者があった。家政科では、天井カメラシステムを日常的に授業で活用している。アパレルCADシステムは2学期から専門学校の先生を講師に指導してもらう。コンクールでは、たまごニコニコ甲子園で中国地方代表として全国大会へ、牛乳・乳製品コンテストで中国大会に出場した。活動の様子を、こまめにInstagramにあげている。オープンスクールでは、家政科に入学した男子もファッションショーに参加し、新しい風を起こすことができた。1年団は「総合的な探究の時間」で3つのプロジェクト「ふるさと納税」、「防災」、「地域人材」に取り組んでいる。家庭学習時間が9月は減少。GIP（がんばるこ育成プログラム）を開始した。家庭学習時間が増えるよう働きかけていきたい。2年団は、家庭学習時間微増。進路指導はロードマップを活用し、丁寧な面接指導を実施。模試成績は少し上がった。徐々に成長している。探究ではフィールドワーク等で他者との関わり、やりとりを通して成長が見られる。2年生はボランティアによく参加している。紹介をしたときの反応もよいし、参加することで変容も見られる。3年団の進路は、現在、学校推薦型出願時期。生徒は自分自身と向き合うのが苦しいと思うし、頑張っても不合格もある。ただ、あきらめないというのがこの学年の一番いいところ。この学年から6クラスになったが、国公立大学合格65名以上、岡山大学合格10名以上という高い目標を立て、最後までしっかり指導し、総社高校に来てよかったと思えるようにしたい。外部からも応援をお願いしたい。学校広報ではフライヤーをつくり中学生に総社高校を知ってもらおうと中学校に配付している。12月にスクールガイドを中学校に持参し2年生対象に配付してもらい、進路学習に役立ててもらう予定。探究の1年生の防災グループは環境防災科のある兵庫県立舞子高校とズームで会議を行った。また、校内避難訓練を改善していく予定である。図書課では、授業で積極的に図書館を活用し、本を読むことに慣れる取組を行っている。主幹教諭としては、他課と連携し、学校行事、学校運営を円滑に行っている。

3 意見交換

会長：学校の目標は、大きくいうと地域社会に貢献する人材の育成ということになると思う。その視点をもって、建設的な意見を伺いたい。

委員A：学生の学力が伸びている。大変うれしく思う。社会福祉協議会として、校長から、自分事としてとらえることが必要という話があったが、社会福祉協議会が行うボランティアに、総社高校からは80名に参加してもらった。これからも引き続き社会貢献活動の一環として多くの生徒に携わってもらいたい。質問だが、1年生の家庭学習時間が減少したという話があったが、①どんな教科の学習時間が減少したか？また、②オーストラリア研修の対象学年と内容は？

→① 全体的に、教科内容は不明。② 1, 2年対象、ホームステイで1家庭2名を受け入れてもらっている。

委員B：授業参観では、3年生が受験に向けて頑張っていた。美術と国語がコラボした授業では、付箋を用いて自分の考えを表し、他人の考えを知り、表現の豊かさにつながっていると感じた。理科では、実験結果についてChromebookを活用しまとめられていた。中学校では、Chromebookは、活用できる場面と活用できないところがある。家庭学習時間は、中学校では、中2で中だるみがあり、中3で受験に向けて増加する傾向にある。家庭学習に繋がる授業を行わないといけない。提出物も出さない生徒が増えてきている。出さないペナルティを科したり、課題の意義を伝えたりするなど、工夫が必要である。

委員C：本校出身の生徒が総社高校で多くお世話になっている。他にも総社南、倉敷青陵等でお世話になっている。学校の選択については、先輩の言葉が大きな影響がある。本校では、授業参観ウイークを中止し、いつでも参観可能にした。教科を超えての授業参観もしている。防災学習では、神戸に一泊して学ぶという取組を行っている。総社高校と一緒にできることがあれば、一緒にやっていきたい。

委員D：先生の言葉の力はすごいと思う。「高校時代に、先生に大変お世話になって、看護師の仕事をしています。今の私があるのは先生のおかげです。」という話を聞いた。大変素敵な方

だったが、総社高校の卒業生だった。魅力がある学校というのは、そんな人を育てる学校だと思う。これからも魅力がある総社高校に、地域の方などいろいろな人の力を合わせてしていただきたい。

委員 E：「見える学力」と「見えない学力」という話があったが、大学へ入学してからは、主体的に頑張る力が求められる。総社高校では、見える学力については、習熟度にして上位者が増えており、下位層は上がひっぱってくれている。5年後、10年後に大きな成果につながると思う。大学入試には、一般と推薦があるが、早く合格したら勉強しないという傾向がある。基礎学力がないと就職試験で合格しないので、大学では公務員試験を受けないという学生も見られる。推薦で合格した生徒にどのようにして勉強させるかが課題である。

→ 委員 D：大学によっては、Kラーニング等の課題がでるところもある。

→ 本校では、共通テストまで全員に受験させている。推薦で早く合格した生徒にも、国公立の2次対策の講義を受講することも勧めている。

委員 F：習熟度別だけで学力が伸びるのかな？という疑問がわいた。1年から個別指導もされていると伺った。大変だと思うが、そのような取組も伸びに繋がっているのではないかと感じた。大学入試とは別に、こんな自分になりたいという「生き方」について、じっくり考えるというのがないといけないと思う。もちろんされていると思うが。就職しても早期にやめてしまう者が多い。校種を超えて力をいれてもらいたいと思う。

委員 G：論理国語とスタンダードライティングの授業を参観した。自分が学生の時とは、授業の仕方も大きく違っていると感じた。国公立大学65名合格という目標をきいたが、大谷選手が高校時代にマンダラチャートを使って目標を立てたように、個人個人が目標を立ててがんばることが大切である。昨年の国公立大学の合格者数は？

→ 浪人を含めて、33人。

委員 H：1年の時から学力的に厳しい状況で学校生活を送っている生徒もいる。底上げをしながらいかに伸ばしていくか。正直、生徒は、1、2年を楽しみながら過ごしているが、自分自身がどうなっていくか、自己対話をする時間が必要である。総合的探究の時間に関連させて、教科学習も楽しみながら進めてもらいたいと思う。中学校では、神戸へ防災学習で行くということであったが、総社高校は、地域で様々な防災の活動をしている。中学校で種をまいてもらったものを、高校で育ててもらいたい。

委員 I：先生が生徒に寄り添いながら、きめ細やかに対応していただいているおかげで、生徒があきらめないのだと思う。あきらめないとは、多角的にものごとを見ることにつながっている。グローバルな視点から防災を考えてみると、災害関連の問題は多く、特に避難所が問題。防災学習の事前事後指導で、私も活用してもらえたらと思う。インドネシアの国際交流は現地につれて行くのも可能。声かけしてもらえたら繋げるべき所に繋げる。本学では、国家資格を取る学生が多い。基礎学力は、国家資格を取るときには必ず必要になる。本学では、Kラーニングを使い、学力向上に努めている。島根大学のオープンスクールに参加した取組はたいへんよいと思う。また、図書館利用のための興味をひく取組もよいと思う。

委員 J：本日、一番素晴らしいと思ったのは、トイレの改修工事がされていること。6年くらい委員をさせていただいている。先生、生徒の表情は年々、積み上がってよくなってきている。すべては、先生方の指導のおかげだと思う。ただ、働き方改革が叫ばれている昨今、熱心さが売りであるのは、大丈夫かと心配な面もある。総合的探究の時間に力を入れ始めて、何年か経過したが、推薦入試の結果はどうか？

→ 総合的探究の時間が一つのきっかけになっている生徒は、そこから学びを深めたり、現場に行ったりして、最終的には合格を勝ち取っている。

委員 J：立場的に入社試験の面接をすることがあるが、探究でどのように問いを立てたか、と質問すると答えられない学生もいる。地域連携コーディネーターとして、そのあたりはどうか？

委員K：総社高校では2年2学期末で探究はひとまず終わり、そこから志望理由書作成に取り組んでいく。探究で完結している生徒は厳しい。伸びる生徒は、これはできたけどこれができなかったと自分で認識ができています。できなかったことを大学に学びに行くという気概がある。

会長：先生方には努力をしてもらっている。学校もよい方向に向かっていると思う。そんな中で、こうした方がよいという点は、活かしてもらいたい。

4 事務連絡

次回の学校運営協議会は、令和7年1月31日（金）に実施予定。

5 閉会

豊田校長挨拶

見える学力は、見えない学力の育成のあとについてくるもの。補足資料の説明。次の一手はDXハイスクール。

